迷子を勇気づけ 行方不明者を発見

高P連善行賞

県高P連（住吉明会長）は18日、静岡市内のホテルで6年度「高校生善行表彰選考委員会」を開き、37個人5団体を選考。表彰状は各校へ送られ、各校長が、全校集会等の場で他の模範となる行動をした生徒らに賞状を手渡して称揚する。

【個人の部】

〈沼津商業〉山梨凌右1、菊池桃花1、後藤幸樹1＝4月22日、下校中に自転車で転倒した高校生を目撃、介抱した上で所属校、警察、救急隊に連絡した。

〈科学技術〉稲森正3＝7月19日、登校中に通りがかった自動車同士の交通事故の現場で、交通整理や警察官の事情聴取に協力。

〈静岡〉鈴木敬稔2、是永陸羽2＝7月20日、安倍川花火大会の会場で迷子になった2歳児を見つけ、自らの花火見学をさておいて、男児を励ましながら保護者を探し続け、警察官による発見につなげた。

〈掛川工業〉大谷侑生2、岡田凛央2、深尾航大2、守田羽也斗2＝5月9日夕方、路上で転倒した高齢男性を、近くの大人と協力して応急手当し、救急車の手配と誘導等を行った。

〈掛川工業〉大山隆誓1＝9月1日夕方、転倒した高齢女性を、地域の人と協力して応急手当をした上で、救急車の手配と誘導を冷静かつ迅速に行った。

〈磐田南〉石井香衣3、梅田鈴菜3、杉浦花音3、鈴木心海3＝6月26日夜、バイクと軽自動車の衝突事故に遭遇し救急車を要請。怪我人の救助や破片等の片付けと交通整理を行った。

〈浜松大平台〉大石幸矢3＝7月9日、登校途中に、こめかみから出血しうずくまっている小学生を見つけ、近くの人と救助にあたり保護者の到着まで付き添った。

〈浜名〉池谷美緒3＝4月16日、登校途中に自転車に乗った中学生と乗用車の事故を目撃し、はねられた中学生を介助・救援した。

〈浜名〉野澤康佑3、津田廉大3＝9月2日午後、混乱して近隣の小学校を飛び出し、浜名高校周辺で泣いている小学生を見つけて保護し、無事小学校の教職員に引き渡した。

〈浜名〉松本悠佑2＝9月4日、遠州鉄道新浜松駅で白杖を持った視覚障がい者が、階段やエスカレーター付近の移動に困っているのを見て、適切に誘導と介助を行った。本人から学校に「『助け合いが大事ですから』と言って爽やかに去って行った。感動した」と連絡が入った。

〈藤枝東〉巻野結衣2、大石南実1＝5月下旬、市内の交差点において自転車で転倒し、怪我をした男子中学生を見つけて、所属校の保健室に連れ帰って手当につなげた。

〈藤枝東〉上野祥悠3、川口瑠子3、清水美来3、高野莉子3、長島悠真3、増田陽菜3、宮坂苑香3＝5月下旬、学校近くの交差点において自転車で転倒した男子中学生を見かけ、所属校の保健室まで付き添い中学生の保護者への連絡と救急外来受診につなげた。

〈伊豆中央〉長澤朋1＝8月10日朝、部活動で訪問した山中湖の周回コースで、自動車の自損事故を目撃して、運転手の怪我の有無を確認した上で路側帯に乗り上げた車の救出に力を貸した。生徒が「伊豆中央高校」の校名が入ったジャージを着用していたため、学校にお礼の手紙とスポーツドリンクが届いた。

〈伊豆中央〉森島昊聖2＝2月3日朝、駅で倒れていた高齢女性を発見し、交番に連絡し救急車が到着するまで女性に寄り添った。

〈相良〉柴田姫愛3＝地域活動に参加する学校独自プロジェクトのSCH活動に3年間で累計23回参加。海岸清掃のボランティア活動に数多く取り組んだ。

〈榛原〉北西快名2＝9月12日、登校中に道路に倒れていた年配女性を発見し、本人に確認しながら救急隊に状況を伝えて、すみやかな救助につなげた。

〈清流館〉鈴木翔成2、鈴木愛斗2＝9月21日昼、帰宅困難になった高齢者に呼び止められ、携帯電話で家族に状況を伝え、合流の目印となった飲食店まで徒歩で付き添い帰宅を支援。

〈横須賀〉笹本超飛1＝9月1日夕方、雨中転倒し頭部から出血していた高齢女性と遭遇。介抱した上で、近くの人と協力して救急車による搬送につなげた。

〈清水桜が丘〉山田翔生3＝5月20日夕方、同報無線で伝えられた行方不明者と同一の特徴の高齢女性を発見。事情を聞き警察による保護につなげた。

【団体の部】

〈浜松湖東フェアトレード研究会〉令和2年から校内での探究活動を生かしてフェアトレードへの学びを深め生産者を訪問し交流する中でその支援のための募金活動を展開している。

〈浜松湖東生徒〉令和3年から「湖東の場所（コトバショ）」の活動を始め、小中学生への憩いの場所の提供や学習支援に取り組んでいる。「どんな子どもも放って置かれることのない社会の実現」を目差して活動を開始。月に2回開催中。

〈浜松工業生徒〉7月30日昼頃、学校北側から火災が発生し、居合わせたラグビー部員、全定の有志生徒が消防署員と共に消火作業にあたり延焼を食い止めた。勇猛果敢と賞賛された。

〈稲取ボランティア部〉平成24年から夏休みを利用して地域の小学校に出向いて学習を支援する「ぐんぐん教室」の活動に取り組み感謝されている。

〈三島北音楽部〉平成24年から特別養護老人ホームのホーム祭りに毎年参加し合唱を披露して交流。園児の歌唱指導も行っている。

初の刑務所見学 更生教育を学ぶ

県教委

県教委の教育委員と幹部を含む事務局職員11人は18日午後、移動教育委員会の一環で、静岡刑務所（静岡市葵区東千代田）を初めて訪れた。刑務所の現状や更生教育の現場を知ることが目的。本年度、同刑務所の視察委員会委員に任命された県教委の宮崎文秀理事が初訪問を調整し実現。池上重弘教育長は学校訪問のため欠席した。

同刑務所の収容者の主な罪名は、窃盗、詐欺、強姦、覚醒剤、強盗、殺人、強制わいせつ、傷害、放火、大麻、道交法、住居侵入、横領、迷惑行為防止条例違反等々。

県教委一行は、一般区域にある庁舎会議室で中瀬光徳所長から施設概要と収容状況等の説明を受けると＝写真＝、受刑者が生活する戒護区域（いわゆる「塀の中」）に入った。スマホやカメラの持ち込みは禁止された。筆記用具は許可をもらって持ち込むことができた。

庁舎から戒護区域に入ると、目の前に戒護区域が広がり、一行はそこに進んだ。看守は2つ目のドアもしっかりと閉めた。

参観した場所は、刑務作業を行う工場（木工、印刷等）、自営作業室（炊事、洗濯等）、研修室、診療室、体育館、運動場、教誨室（祭壇がある部屋）、音を遮断する静音室等。なお、風呂場は作業を終えた受刑者が入浴中だったため、外から施設外観を見学した。参観した時間帯は、受刑者の余暇時間だったため、作業の様子は見学できなかったが、実際の受刑者の様子をシル静岡）を参観した。

参観を終えた県教委一行は、2つのドアを通って、戒護区域から庁舎会議室に戻った。

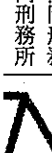
会議室では、中瀬所長ら職員と質疑応答を行った。天城真美教育委員は、女性の未決拘禁者の人権や生活面で刑務所側がどの様な配慮をしているのか質問。

水口秀樹教育部長は、県教委が不祥事根絶対策に盛り込んだ「人権意識の醸成」を巡って所長と意見交換した。

◎宮崎理事の話　「本年度、静岡刑務所と、法務省から同刑務所今回、移動教育委員会で参観したが、希望があれば教職員の視察研修の機会も仲介したい。不祥事は、交通事犯、不適切な言動をはじめ過失も含めて意外と身近なところにある。人権意識でいえば、受刑者の呼称も今年から、『さん付け』される時代となった事を自覚したい」。

参観希望の学校関係者は県教委教育総務課へ連絡する。

「三畳画廊」初開催



官民協働施設の静岡刑務所と、法務省から同刑務所開催する。予約制で10～20人の団体申込みが原則。展示作品は受刑者が教育プログラムや余暇時間に描いたものの中から、常葉大学の学生が選定したもの。市民が受刑者を知り、受刑者が受け入れてもらえる社会を作ることで新たな犯罪が起こることを防ぐことが企画展の目的。

企画展では、来場者と受刑者が面会する機会はないが、受刑者へ作品の感想や気持ちを伝えるメッセージボードを設置する。

ショウプロ事業責任者久木野純子さんは「受刑と地域社会をアートでつぐことが目的です。刑務の活動は、関係者の目にまって終わってしまうこが多いですが、アートが刑者と地域をつなぐ手段なると考え、このプロジクトを立ち上げました。民の皆様からメッセージ頂くことで、受刑者は、人の人として受け入れてらえるのではと考えていす。作品が認められれば、受刑者の自己肯定感も高り、社会復帰への意欲も高

「共感する人々と繋がろう」と語る

齋藤（さいとう）　文徳（ふみのり）氏

今年4月、富士市教学校教育課長から富士学校長に着任。久しりの学校復帰を果たと、「地域とともにある富士中学校」を基軸に力的に学校経営にあたキックボクシング日本手権王者という肩書き背負うブレのない心・体と感性を備えた社会教師として知られ、行経験と学校経営の実績豊富。人柄と実績で11 15日、富士市ロゼシターで開催される第77